

# 山梨県におけるインフルエンザウイルス

山梨県衛生環境研究所 北爪 美帆 大沼 正行

**背景** インフルエンザは定期的に流行する

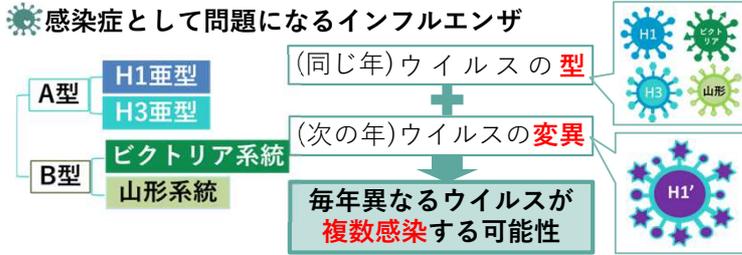
**目的** 発症者を減らすための感染対策方法を探る

山梨県では国の調査の一環で、県民の方の  
 I ウイルスへの**感染状況**  
 II ウイルスに対する**免疫力**  
 の調査を継続して実施している

山梨県での  
 I ウイルスの流行とその傾向  
 II 免疫力の変化  
 →**かからないためのヒント**を探る

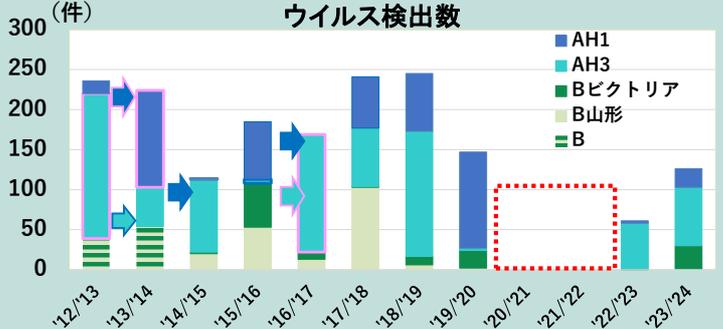


## I-1 山梨県の感染状況 ～敵を知る～



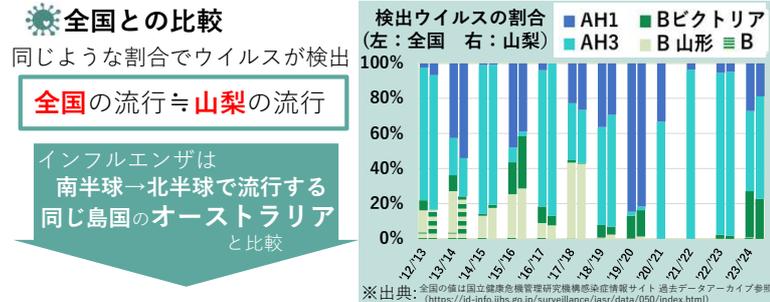
山梨県ではどんなウイルスが感染しているのか

**山梨県のシーズン毎(9月～次の年8月)の感染ウイルスの変遷**

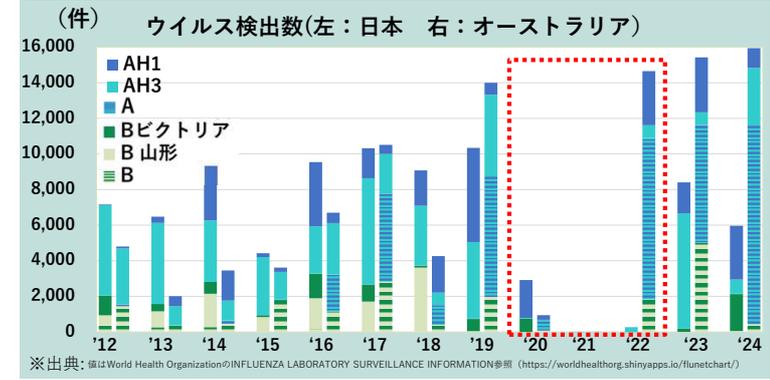


- 大流行→減少、感染少ない→増加する傾向
- コロナ禍の2020/21～2021/22シーズンは**ゼロ**
- 近年B型(山形系統)は確認されていない

## I-2 全国や世界との比較 ～山梨県の特徴を知る～



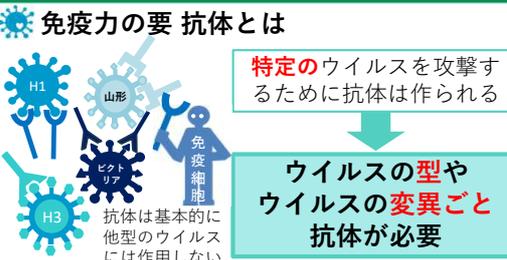
**南半球との比較**



- 山梨、日本、世界で検出ウイルスの型は**類似**
- コロナ禍の**2020年**から検出数**激減**  
 その後、**2022年**はオーストラリアで**激増**、日本では**少ない**まま推移

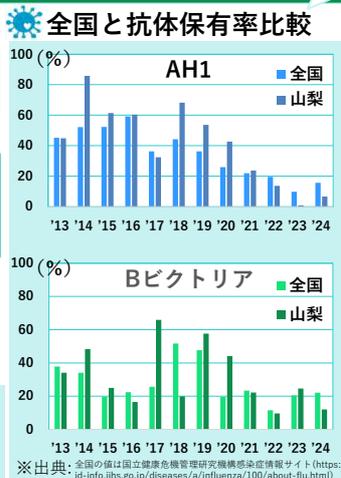
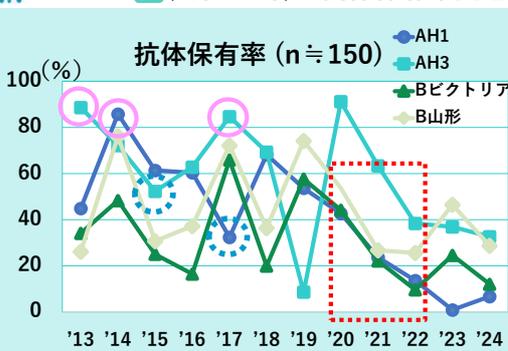
## II ウイルスへの免疫力 ～抗体をゲットせよ～

AH3およびB山形も同様の傾向



山梨県民の方はどんな抗体を保有しているのか

**シーズン後(7月～8月)の抗体保有率変遷**



- 前シーズンに流行すると抗体保有率が**増加**する傾向
- 感染の少ない次の年は抗体保有率が**減少**する傾向
- コロナ禍の**2021~22年**は**減少**その後**流行前**よりも**低く**推移
- 山梨県と全国の抗体保有率はその増減が**類似**

## 感染リスクと対策 ～コロナ禍からのヒント～

- 流行するウイルスの特徴**
- 山梨県では前シーズンの流行の型が**影響**
  - 山梨県と日本全国は**同じ傾向**
  - 日本と世界もおおむね**同じ傾向**  
 コロナ禍後は**異なる傾向**
- 抗体保有率の変化**
- 山梨県では**前シーズンの流行状況が影響**
  - **コロナ禍**で**減少**し、現在も**低い**

インフルエンザに感染しないためには

**南半球で流行している年は特に感染対策が重要**

南半球の流行状況は日本ひいては山梨の流行状況と一致する傾向がある。

**流行しなかった次の年は要注意**

感染者が少ない次の年は免疫を持たない人が多く、流行リスクが高い。コロナ禍後は長期的に多くの感染者が報告されている。

**ワクチン接種だけでなく  
一般的な感染対策がなにより効果的**

コロナ禍は感染者が激減し、2022年はオーストラリアより感染者少ない=感染対策がしっかりされていた時は抗体をもたずとも感染者が少ないことから、感染対策の効果がわかる。